

1 直近の活動

11月6日(日)幹事会 全国大会の後で静かな打ち合わせ

11月20日(日)「脱炭素社会」勉強会第6回目 セミナ公演の討議

11月27日(日)定例部会技術講演会 少人数ながらまとまった会合になった。今回から、司会を持ち回りにした。

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

12月4日(日)幹事会

12月11日(日)金属部会CPD技術セミナー4「脱炭素社会」申し込みがZOOM上限の100人を超えそう。

11月27日(日)定例部会技術講演会、役員会。

3 部会四方山

▶2022年の定例部会+セミナー参加者は、12月で1000人を超える。10月の全国大会でオンラインがなく、参加者もわからないためゼロカウントしてでの数字である。来年は全国大会の月もオンラインの定例会をやればもう少し、早めに1000人超えが達成できそうだ。▶合同部会や脱炭素社会、地方交流会も入れるとギリギリ1500人に滑り込む。そうそう、1000人達成は、12月の定例部会の参加者からなので、吉武記念講演会で「豪華記念品」を渡したつもり、受け取ったつもりで達成の喜びスピーチをお願いすることにする。▶最近、技術士会のシステムで立て続けにトラブルを経験した。一つは、12月の定例会が2つ掲載されてしまったことと、吉武記念公演会の申し込みボタンがなかったことである。どちらシステムバグだったようだが、2度あることは3度ある(この表現は正しく、2度目がなければ絶対に3度目はない。1度目の次に3度目が来たらおかしいよね。これこそバグだ)

4 和鐵管見 15

▶どうやら日本は上り調子ようだ。ドーハの2度の目の奇跡も去ることながら、円高も収まりつつあり、海外の政権がガヤガヤしているが、日本は相変わらず、どうでもよ様な井戸端会議的質問で時間を費やしている。平和の証かもしれない。▶今年の6月から脱炭素社会の勉強会を始めたが、案外、参加者の皆さんのノリがよく、驚くほどの知見が共有化できた。少なくとも、勉強会の前後では明らかに意識が異なってきた。勉強会の前は、脱炭素に関しては、被害者意識と不満意識が和鐵の中にあった。それが知ることにより落ち着いて事実で議論できるようになったような気がする。▶知り方にも色々ある。最近ではスマホで「脱炭素」と入れれば、似た記事がわんさかアクセスできる。そこに書かれていることはほぼ同じ。だってソースは同じで孫引きしているものが多いんだもの。でも、これが勉強会で会話しながらの説明なら印象が異なる。ましてや分担してのゼミ形式ではますます親近感が高まる。▶知識を得るには、「読む」「見る」「聞く」「体験する」がある。この中で最強なのは体験するだ。物書きとしてはこんな発言は良くないのだろうが、本を読んだくらいでは、知識は身につかない。会話したり、応用したり、体験して初めて血肉になる。紙や画面に表示されている表示くらいではなかなか身につかない。でも、もっと身につかないのが「眺める」だ。振り返ればyoutubeを眺めて情報を得たつもりになっていることが多い。なんの役にも立たない情報、たまたま表題でポチった、画面に映っていた動画を凝視する行為は、洗脳行為に等しい。これで、知識を得た気になって。「そうか動画を見るだけで1万円が1000万円にできるのか」「腸内バイ菌を培養すれば痩せれるのか」と洗脳されているじぶんが恐ろしい。▶やっぱり、リアルの会話、対話って重要なような気がします。